

「取手駅西口開発」を考える

シリーズ

④

取手駅東西自由通路整備計画の経過



繰り返した駅前開発の失敗。これらの反省もなく、市民不在で進む「ウェルネス・タウン取手市の創造」構想。そして公有地売却への消えない疑惑…。市民の圧倒的な願いは「旧東急ビル」の再開。改めて取手駅西口開発について考えてみましょう。ご意見をお聞かせください。

「東急ビル」建設完了後の間もないころ、取手駅ビル建設に合わせ、駅ビル内（西口デッキ～改札前）に延長 41.9m、幅 6m の東西自由通路 1 期工事が 1988 年に完成しました。その後の駅東口側に伸ばすとした「2 期工事計画」の具体化は進まず、今日に至っています。

いい加減に 2 本目の「駅自由通路」はあきらめて、現在ある「ギャラリーロード」の改善を

「芸術の杜創造プロジェクト」構想による駅東西自由通路計画は失敗した

2005 年から 2006 年にかけて塚本光男元市長のもとで「芸術の杜創造プロジェクト」の関連主要事業の一つとして「取手駅東西自由通路」（総事業費 17 億円）は計画されました。

駅東口前に建設計画が進んでいた高層マンションと「駅東西自由通路」を歩行者デッキで結ぶ計画が浮上したのが 2007 年。市長選挙の直前でした。「2 本目の駅東西連絡通路はいらない」との反対する市民の声が大きくひろがりました。同時に、民間マンションへの「自由通路」接続は、「特定業者との癒着、便宜供与」、東口前商店街への悪影響等の懸念が表面化しました。市長選後、この計画は消えました。

藤井市長発案…

「駅自由通路と橋上駅舎を一体」に転じたが、これも失敗した

見直すどころか、35 億円の事業に拡大

「芸術の杜創造プロジェクト」見直しを公約した藤井信吾市長は、前市長の単独の「駅東西自由通路計画」から、「駅東西自由通路」は取手市、駅舎は JR 東日本の事業とした「橋上駅舎と自由通路を一体」とする計画に転換。

費用負担は、国・県補助、市で総計 21 億円を税金で負担（市から JR への補助金 4 億円を含む）、JR の負担 14 億円というものでした。

市民は反対、JR も「実施困難」、凍結へ

駅東口改札閉鎖、交番の移転等を含む計画が明らかになる中、「2 本目の自由通路は無駄、駅東口構内バリアフリー化こそ必要」「駅東口改札・交番の存続を」等、市民世論が大きく広がりました。市議会も、「駅東口構内バリアフリー化」「交番存続」を求める請願を採択。

2010 年 2 月、JR 東日本は「経済状況低迷の中、新規事業に着手せず、現行の駅舎の耐震化や構内のバリアフリー化を優先的に進めたい」と取手市に連絡、市も「駅東西自由通路計画」凍結を宣言。

「ウェルネス・タウン構想」

懲りずに「駅東西自由通路」計画を再浮上させたが…

2011 年 7 月臨時議会で、「ウェルネス・タウン構想」関連予算とともに、「駅自由通路」を整備するとして、現在ある店舗などの補償費を算出する「補償調査設計業務委託料」の予算 500 万円が、2 本目の「通路」は必要ないとするなかで強行可決されました。

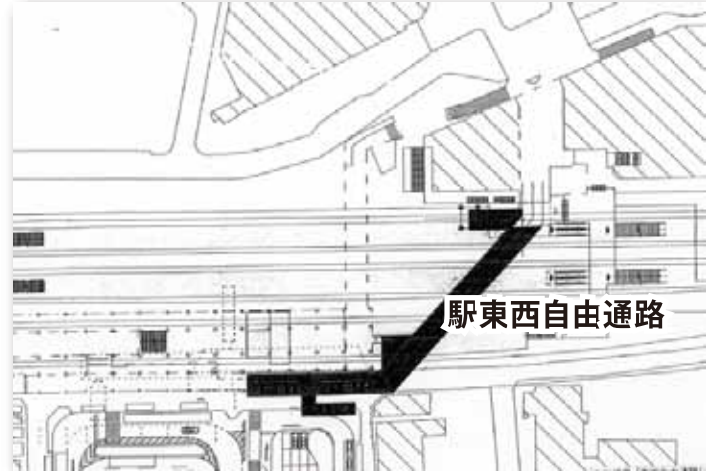
関係予算は昨年度から本年度に繰り越され、JR 東日本との協議継続中です。

危うい計画にも…

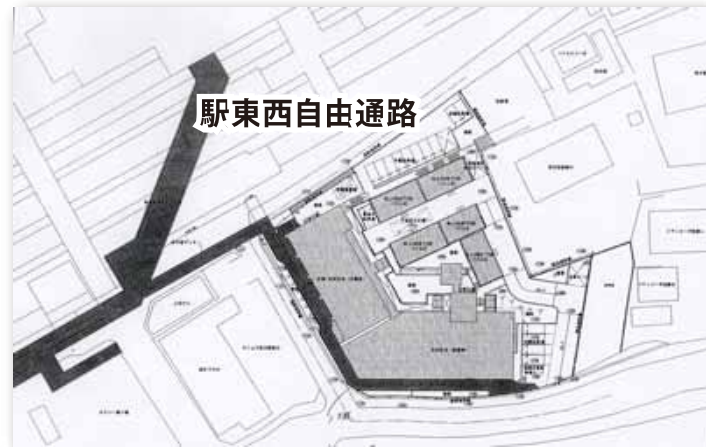
JR との協議いかに、税金の無駄づかいの拡大になりかねない

「駅自由通路」整備にともない、現在の駅舎にある JR 東日本の所有の駅舎内の店舗等の移転に関する補償についての協議がすすめられています。このなかで JR 東日本は、「駅舎内に店舗スペースを補償する」ことを求めています。この JR 東日本の要求を受け入れるためには、「駅東西自由通路とあわせて JR 東日本が所有する店舗等にあつた建築物を取手市が建設することになり、凍結となった「橋上駅舎との一体整備」の前計画に準ずる事業費の大幅な拡大になってしまうことが予想されます。

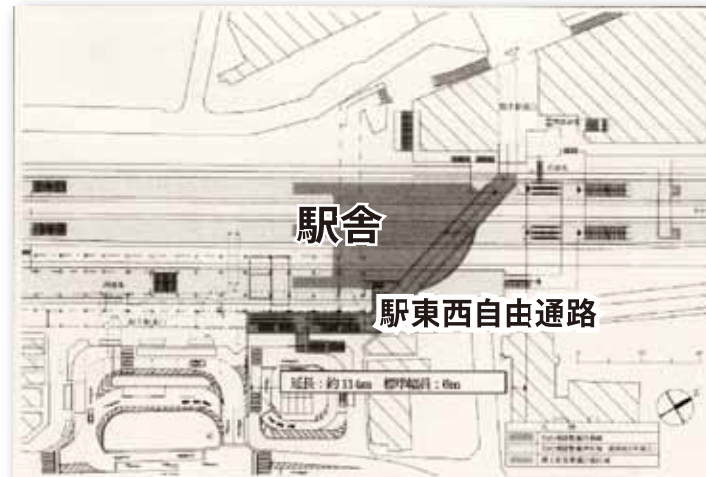
破たんしたこれまでの計画



当初の計画（駅東西自由通路単独）



駅東西自由通路を新設マンションまで延伸の計画



駅東西自由通路と駅舎の一体計画

政治革新の道しるべ、真実つたえ希望はこぼ

しんぶん 赤旗

日刊 ● 月 3,400 円
日曜版 ● 月 800 円

お申込みは
日本共産党取手市委員会まで
電話 72-7816

「明るい取手」を
折り込みします。